

2017 レース結果報告書

鈴鹿選手権 最終戦



DOG FIGHT R

株式会社ドッグファイトレーシング

レース

Race

全日本選手権MF Jカップが終わり、JP250のレースを終えた豊島怜選手の来季に向けたテストの為に鈴鹿選手権・最終戦のST600クラスに参戦して参りました。夏の4時間耐久では接触転倒により消化不良のまま終わっているのです、スプリントレースでどこまで順応できるのかを試す場となりました。

心配された雨も無く、ドライコンディションで行われた最終戦のレース結果をご報告いたします。

またR25で初期開発が完成したRPM製リヤサスペンションの適合性を確認するため藤永選手がCBR250RRで急遽参戦。その結果も併せてご報告いたします。

トンベイ名 : 鈴鹿選手権 最終戦

開催日 : 2017年11月26日

スーレ結果:	ST600 #77 豊島怜	予選5位(総合8位)	決勝6位(総合8位)
	JP250 #3 藤永優	予選6位(総合7位)	決勝5位(総合5位)

WEBリザルト : http://www.suzukacircuit.jp/result_s/2017/sundayr/1126in_st600_f.html

ST600 事前テスト～公式予選

事前テストで250から600への乗り換えやマシンの基本セットアップを確認しての走行でしたが、夏の4時間耐久の時よりも楽に乗る事が出来、コンディションの悪い中でもあっさりと自己ベストを更新しましたが、最後の走行でスプーンコーナーでオーバーランして転倒を喫してしまいました。幸いにも怪我も無くマシンのダメージも少なかったためそのままレースウィークに乗り込みました。

金曜日の公式練習で更にペースアップを目論んでいましたが、コースインして直にエンジンから異音が発生。前回の転倒でオイル切れ状態を起こしてしまった為か深刻なダメージの為この日の走行をキャンセルしてエンジン交換する事になりました。そのため初日の走行で車体セットの確認などのプログラムを予定していましたが全てが出来ないままぶっつけの予選となってしまいました。公式予選では3周目に自己ベストを更新しますがそこからペースが上がらずピットインしてセッティングを変更しますが、タイムの更新は出来ず結果クラス5位、総合8番グリッドから決勝レースの臨みました。

レース(ST600)

Race

ST600 決勝

600で初めてのスタートをきれいに決めて一気に5番手にポジションアップ。そのまま序盤は5番手を走りますが徐々にトップ集団から離されてしまいます。決勝に向けて変更した車体セットはまだまだ満足いく状態ではなくレース中盤からは後続のマシンが激しく攻め立ててくる攻防となり徐々にポジションを落としてしまいます。一時は9番手まで順位を落としてしまいますが、それでもラスト3周でスイッチが入って再びペースアップ。ベストタイムを更新して順位を7番手まで回復する気迫の走りを見せました。最終ラップに惜しくも1台に交わされてしまいますがクラス6位入賞（総合8位）でチェッカーを潜り今季のレースを終えました。



豊島怜コメント

今年最後のレースが終わりました。結果は6位入賞。決勝で初めてビッグバイクのスタートをやりました。皆にウィリー期待されてた中でしたが上手くキまりました。決勝レースは攻められる状況ではなく我慢のレースとなり、10周を走り切るののでやっとなで、エンジンの変化、車体の変化に対応しきれませんでした。今回、沢山の課題が見つかりやるべき事が明確になりました。オフシーズンの間に課題を消化し来シーズンに挑みます。

車両を貸して下さった草薙さんエンジンを貸して下さったAKENO SPEED様、チームの皆様、スポンサー様、応援して下さいました。有難うございました。



レース(JP250)

Race

JP250

R25で1年間基礎開発を行ったRPMのリヤサスペンションはトップアウトスプリングの標準装備や高速と低速の圧側ダンパー、そして独立した伸側ダンパーなど上級グレードの装備を標準装備した贅沢な仕様で完成の域に達し、後半戦のレースに於いて高い車体性能を発揮してくれました。今回はそのサスペンションの基本設計を基にCBR250RR用に改良した初期モデルでどこまで走れるかのテスト参戦でしたが、事前テストから車体とのマッチングは良好で、高い次元でセットアップをまとめる事が出来ました。短い時間で仕上がった車両で臨んだ公式予選で34秒5まで一気にタイムを上げ更にペースを上げてゆこうとしましたが、ここにきてギヤ抜けが発生。タイムを詰める事が出来ず総合8番グリッドで予選を終えました。そして迎えた決勝。1周目に一気に5番手までポジションアップしてコントロールラインを通過。トップのマシンは独走で逃げてしまい2番手争いの集団を形成。藤永は自己ベストを更新して33秒台までペースを上げて何度もポジションを入替ながら周回を重ねていきます。コーナーリングの優位性を生かして最終ラップまでドッグファイトを展開。最終シケインで前に出ますがチェッカーラインで並ばれて惜しくも5番手で最終戦を終えました。

藤永優コメント

自分自身の成長ができたレース内容でした。トップはぶっちぎりで速いので、狙うは2番争い。1周目死ぬ気でアウトからまくって前だけ見てアクセル全開。めちゃめちゃ集中していたんですが、位置取りの少しのミスで3台に序盤に離されてしまい2台での4位争いになってしまいました。それでも必死に前に前にプッシュして最終ラップの最終コーナーまで想像以上に攻め続けることができ、結果5位。チームのみんなや関係者様、応援していただいた沢山の方々の気持ちがマシンと自分に力をくれました。ありがとうございました。人生初のミッション車両でレース。2月のテストで大怪我をし、自信も速さも無かった私をここまで支えていただきました全ての方々のお陰で今こうして終了することができ、ホットしているし感動しているし、凄く楽しかったです。今年1年を戦って得た事は私の財産だし。まだまだいけるって思っちゃいました。本当に本当にありがとうございました。

監督コメント

Ofisyaru Comment

全日本最終戦から短い時間の間ですが、来季を見据えた練習を兼ねて豊島選手にはST600クラスにチャレンジしてもらいました。レースウィークにはマシントラブルもあり車体、エンジンフィーリングなどまとめきる事が出来ず厳しい展開でした。路面温度も低く攻めきる事が出来なかった事は残念ですが、決勝も終盤にベストタイムを記録するなどレース中に走りをコントロールしてタイムアップを図る事が出来るクレバーさを見る事が出来ました。まだまだビックバイクを乗りこなすには時間が必要ですが今回の経験を糧に来季のチャレンジに向けオフシーズンを過ごしてほしいと思います。体力アップも必要ですが、何よりも走り込みを中心にビックバイクに慣れて春までに戦える環境作りを進めてゆきます。

サスペンションの開発協力のために参戦したJP250クラスも、ベースマシンから大きな改造をすることなく十分な戦闘力のマシンにセットアップする事が出来ました。決勝レース後の上位陣のタイヤの摩耗を見ても他車よりも摩耗が少なく、路面温度の低い厳しい条件下でも車体面でのアドバンテージを確認できました。

今回のレースで今年の全てのレース活動が終了しました。一年間を共に戦ってくれたライダー、メカニック、スタッフの皆さんお疲れ様でした。そしてご支援、ご声援を頂きましたスポンサー様、パートナー企業様、厳しい結果の中でも温かい声援を送り続けてくれたファンの皆様、本当に有難う御座いました。感謝

ドッグファイトレーシング
代表 室井秀明

スポンサー

Sponcsor

Sponsor



ご支援・ご協力を賜り誠に有難うございます。来年も頑張ります！



ギャラリー

Gallery



ギャラリー

Gallery

